



# 神宮前だより

## 五月の登龍門

副校長 木村 順子

新緑のまぶしい季節となりました。五月五日は端午の節句として、江戸時代より子供たちの健やかな成長を願って、家の軒先に鯉のぼりを飾るといふ伝統があります。鯉のぼりの先端にある金色の矢車は光を放ち、神仏に対して「ここに丈夫な我が子がいますよ」という目印となりました。鯉のぼりの由来は、中国に伝わる伝説が元になっています。中国の黄河の途中には、「龍門」という急流があります。その急な「龍門」を登りきることができた鯉は、龍になることができたといわれています。川を登る鯉は、急流を登るにつれて、うろこが銀色に輝いたようです。また、「龍門を越える」とは、「困難を乗り越える」という意味もあるようです。

さて、新たな令和五年度を迎え、二か月目となります。先日、ホーム&スクールを通じて保護者の皆

様にお伝えさせていただきましたが、子供たちのより良い成長への具体策として、「鯉のぼり」ならぬ「教育ダッシュボード」の活用を本格的に進めてまいります。活用にあたっては、保護者の皆様の御理解と、子供たちに対するお力添えが必要です。この「教育ダッシュボード」とは、一人一台のタブレット端末を活用した日々の教育活動の中で、学校が個別に把握していた複数の情報を集約し、蓄積された情報データを可視化したものです。子供たちは、個別にその日の学習や状況について、タブレットに入力します。

例えば毎朝の出欠状況の推移や、児童自らによる晴れ、雨、くもりといった「心の天気」は、入力によって、日々の心身の状態を理解することが出来ます。また、本日の学習の中で、先哲の教えや考え方に触れたり、友達と話し合いコミュニケーションを取りながら学習を進めたりする中で、これまで自分一人では気付かなかった事象を学習し、新たに「発見したこと」

に気付く等、子供たちの学校生活の様子や成長の状況等を、個々の興味や関心に応じて、即時的に、丁寧に見取ることが出来ます。学級担任を中心として、教員は、児童の以前からの変化を確認しながら、個別最適な学びにより、児童一人一人の特性に応じて、将来を見据えながら教育を進めていきます。

本校では昨年度まで、タブレット端末の活用を通じた「自ら学びに向かう児童の育成」を目指した二年間の研究に取り組んできました。今年度はその研究から一歩進め、「子供一人一人に寄り添った幸せ（ウェルビーイング）につなげるICTの活用」を目指していきたいと考えます。同時に、学校は地域の学校として、学校施設の開放や行事等、今後も、様々な場面で地域に根差した活用・発信できる場でありたいと考えます。



### 五月の目標

#### 【生活指導】

元気よく返事・あいさつをしよう

#### 【保健目標】

身のまわりをきれいにしよう

#### 【給食目標】

「いただきます」「ごちそうさま」のあいさつをしよう